

2013年3月5日
東日本旅客鉄道株式会社

大規模太陽光発電設備を導入し、 発電した電気を鉄道運行などに使用します

JR東日本ではこれまで、自営発電所等の設備更新、蓄電池駆動電車の試験、「スマートグリッド技術」適用の検討など、エネルギー分野の新技術導入に取り組んでまいりました。

その一環として、再生可能エネルギーである太陽光発電の導入拡大により創エネを推進し、CO₂排出量の抑制に取り組んでおり、この度、大規模太陽光発電設備（メガソーラ）を京葉車両センターに設置します。

発電した電気は、京葉車両センターおよび当社配電線を介して鉄道運行に活用します。

1 概要

当社はこれまでに、東京駅、四ツ谷駅および平泉駅等に太陽光発電設備を導入してきました。このたび、当社では初めてとなる出力1,000kW以上の大規模太陽光発電設備（メガソーラ）を京葉車両センターに設置します。発電した電気は、京葉車両センターで消費するほか、当社の配電線を介して鉄道運行に活用し、当社のCO₂排出量を削減します。【別紙】

この大規模太陽光発電設備で発電する電力量は、1日平均約2,700kWh（年間約1,000MWh）であり、これは山手線（E231系）1編成が約4周走行する際に消費する電力量、または約270世帯が1日に消費する電力量に相当します。

また、太陽光で発電した電気を有効利用するために、電力系統を制御して電気を遠くへ送る技術について、本設備を活用して試験を行います。

2 太陽光発電設備の主な仕様 【別紙】

太陽光パネル設置箇所	京葉車両センター構内
太陽光発電定格出力	1,050kW
太陽光パネル面積	6,600 m ²
想定年間発電電力量	約1,000MWh
想定年間CO ₂ 削減量	約500 t

3 使用開始時期

2013年度

